
 私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経外科」

信州大学医学部脳神経外科学教室

金谷 康平

「医者が末期がん患者になってわかったこと」という本に出会ったのが、私が脳神経外科医を目指した一つのきっかけでした。この本は脳神経外科医が脳腫瘍の中で最も予後の悪い膠芽腫を患い、42歳の若さで亡くなってしまふまでの闘病生活や家族への思いを綴った手記です。本の中では「手術をすれば言葉を失ってしまったり家族のこともわからなくなってしまうかもしれないから」と手術前に家族への思いをしたためたり、脳神経外科医だからこそ鮮明にわかる今後起こりうる辛い未来のことなどを苦しみ病気を恨めしく思いながら、それでも最後まで家族の幸せと病気の回復を願いながら生きて先生でした。こんな壮絶な世界があるのか。高校生の僕の胸には強烈に刻み込まれました。自分にできるかどうかは分からないけど自分もその世

 私がなぜ現在の科目を選んだか

「整形外科」

信州大学医学部運動機能学教室

上原 将志

私が整形外科を選んだ理由をいくつか述べます。まず第一の理由としては、小学時代から始めたバスケットボールがきっかけです。やはりスポーツには怪我がつきものですが、中学時代に骨折をし、手術・入院を経験しました。その際担当の先生にあこがれの気持ちを抱き、自然と整形外科に親近感をもったのだと思います。

次に学生時代の臨床実習でのイメージで患者さんが良くなることが多い（亡くなることが少ない）と感じたことです。整形外科は他科と違って悪性疾患よりも怪我や痛みをメインに治療することが多く、最終的には患者さんが良くなって帰っていく確率が高い科だと考えていました。また、診断から外科的治療も含めた治療まで完結できることが多い科の一つとして魅力的

界を見てみたいと高校生ながらに思っていたことを覚えています。

学生や研修医の時は色々な科を回り、どの科もやりがいがあり面白そうでしたが、やはり高校生の時から持っていた脳神経外科に対する憧れに近い感情が消えることはなかったため、今の道を選びました。自分が脳神経外科医になって8年目の今でもきちんとできているか不安ですし、人間的にも技術的にもまだまだ足りないことが多いです。手術に必要な技術を上げるにも経験や時間がかかる科だとも思います。ただ自分が脳神経外科医になると決めたからには上を目指して、辛いこともあるでしょうが楽しくこの道を極めて行きたいと思っています。

脳神経外科に関わる患者さんやご家族はつらい思いをしている方が多いと思います。少しでも脳神経疾患で困っている方々の支えになれるように、また医療はチーム力ですので、医師はもちろんのことメディカルの方々とも協力して、よりよい脳神経外科チームを担う一員でありたいと思います。

(弘前大平18年卒)

に考えていました。当然、複雑な合併症等を持った患者さんもいますので各科の先生と協力しながら診療を行う場面も多々あります。

その後、医師になってから、相澤病院で行った2年間の初期研修中に非常に多くの整形外科の患者さんがいることを目の当たりにし、整形外科に関わる領域の広さ、整形外科医としてのあり方の多用さ、そして何より、患者さんのQOLを追求するというスタンスにやりがいを感じ、整形外科医になることを決めました。

私が整形外科医になってから7年になりますが、選択した当時よりも整形外科に対する知識も興味も増しており、日々技術を切磋琢磨できている状況であり、とても充実しています。整形外科が自分にとって最も良かった選択であったかどうかは分かりませんが、良い選択であったと思っています。どの科を選ぶかということはあまり重要ではなく、自分の選択した科に対していかに情熱を持ち続けていられるかが大事だと思います。その点整形外科はその領域の広さから、いつまでもいろいろなことに興味を持ち、自分の情熱を注げることができる科の一つではないかと思っています。

(富山大平19年卒)